



Emerging Bio-medical Technology

MEDI+NET

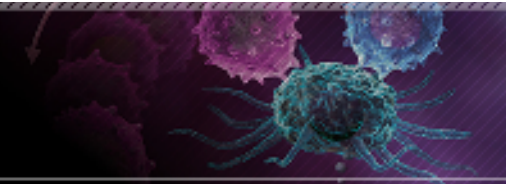
株式会社メディネット

2011年9月期 決算説明会

- (注)
1. 決算数値は全て連結となっております。
 2. 金額単位未満については切り捨てて表示しております。

November 21st, 2011

| 本日も話させていただくこと



1. 2011年9月期 事業活動報告

■ 2011年9月期 決算ハイライト

■ 成長軌道に乗せる

- ①がん拠点病院等との取り組みを水平展開する
- ②研究開発の成果を迅速に収益化する
- ③RA化を踏まえ、海外事業展開を加速する

■ 2012年9月期に向けて

2. 2011年9月期 業績報告

■ 2011年9月期 業績報告

■ 2012年9月期 通期業績予想



Emerging Bio-medical Technology
MEDI+NET

2011年9月期 事業活動報告

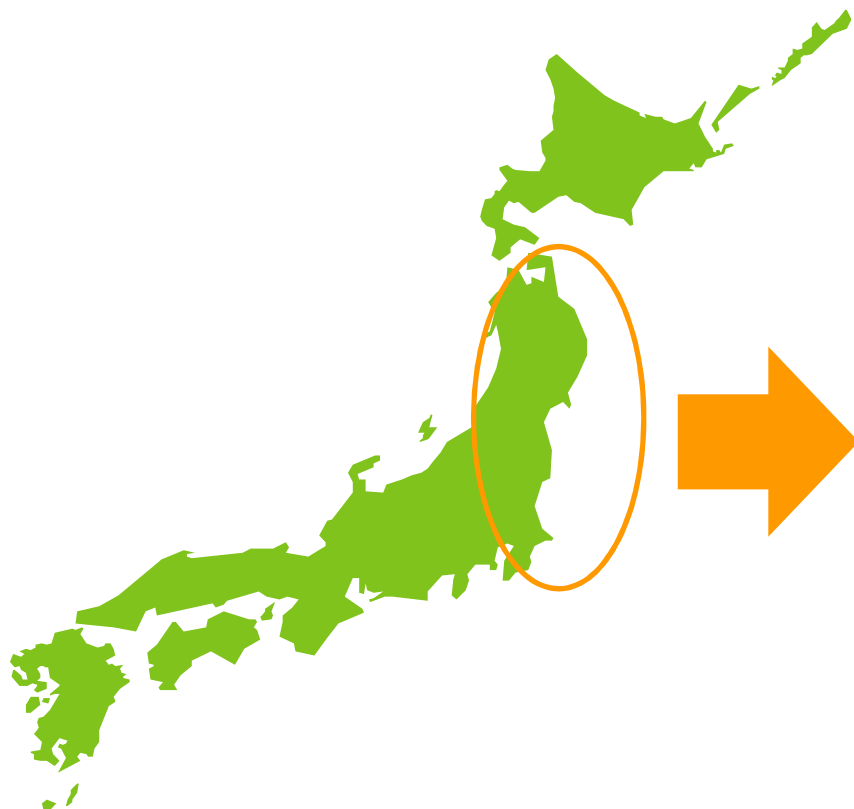
代表取締役社長
木村 佳司



1. 2011年9月期 事業活動報告

■2011年9月期 決算ハイライト

東日本大震災の影響



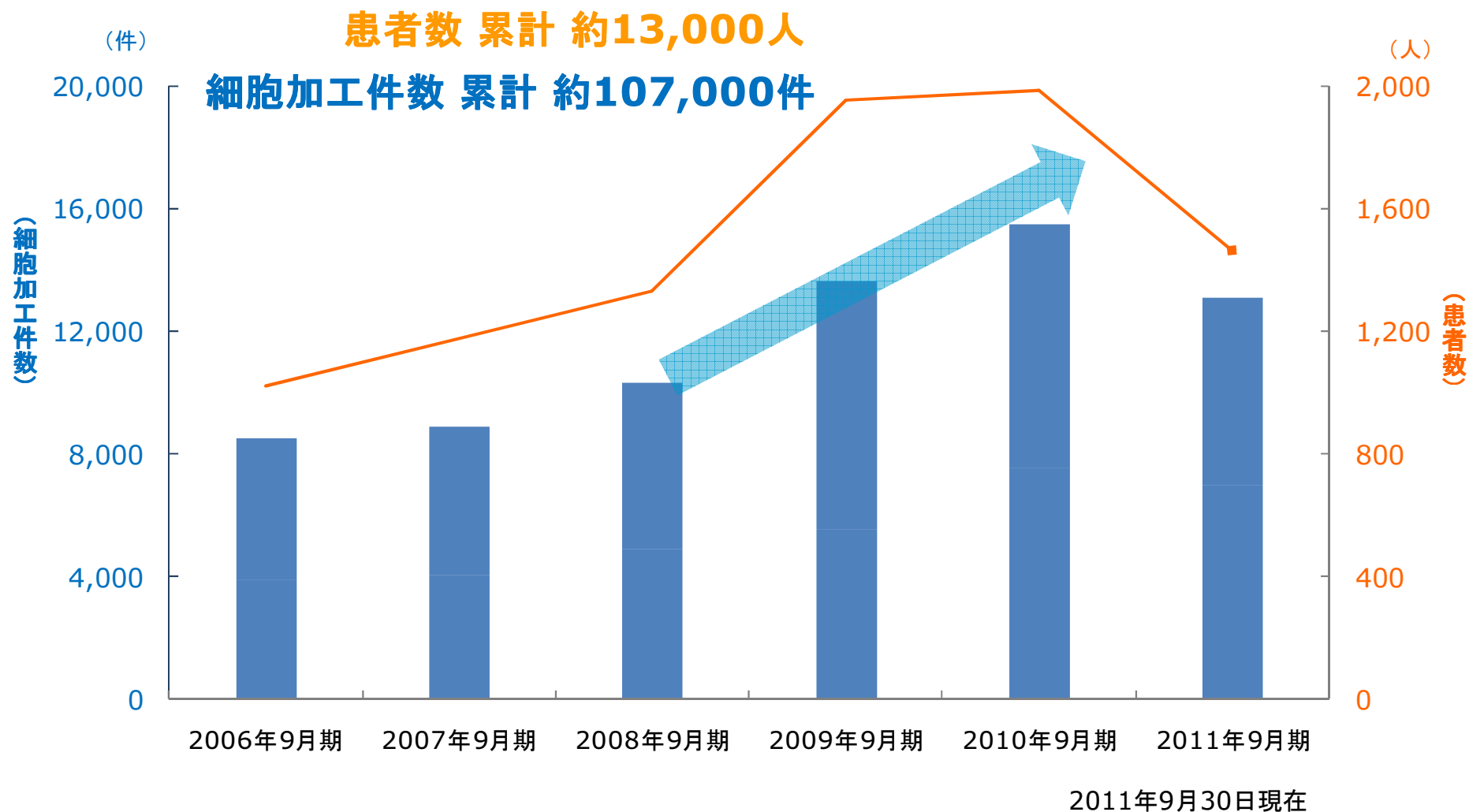
- ・ 当社設備や従業員への直接的影響はなし
- ・ 震災発生に伴う交通遮断
- ・ 震災発生によるロジスティック停止
- ・ 資材仕入れ先の被災
- ・ 新規患者の受け入れを停止
- ・ 計画停電によるCPCオペレーション対応
- ・ 計画停電による首都圏の交通遮断
- ・ 震災直後、一定期間広報活動を自粛

- ・ 広報活動再開したが、震災の影響が予想以上に大きく、前期と同様の効果得ず

等

未曾有の大震災の影響が長期化

患者数および細胞加工件数の実績



2011年9月期 決算ハイライト

(単位：百万円)	2010年9月期	2011年9月期	対前年同期比		対当初業績予想 (2010年11月5日公表) ※3	
	前年同期 実績	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	3,202	2,674	(528)	-16.5%	(848)	—
営業利益	334	(303)	(637)	—	(653)	—
経常利益	366	(353)	(719)	—	(703)	—
為替差益(差損)	31	(16)	-	-	-	-
当期純利益	438	(542)	(980)	—	(882)	—
法人税等調整額	(140)	153	-	-	-	-
設備投資	※1 131	※2 321	—	—	—	—
減価償却費	129	154	—	—	—	—

・設備投資は、有形固定資産のほか、無形固定資産のうちソフトウェアを含めています。

設備投資＝有形固定資産＋ソフトウェア

※1 2010年9月期の設備投資には、リース資産21百万円が含まれています。

※2 2011年9月期の設備投資には、リース資産47百万円が含まれています。

※3 2011年9月期の業績予想につきましては、2010年11月5日に公表した業績予想を2011年4月28日および2011年10月28日に修正しております。



1. 2011年9月期 事業活動報告

■成長軌道に乗せる

- ①がん拠点病院等との取り組みを水平展開する
- ②研究開発の成果を迅速に収益化する
- ③RA化を踏まえ、海外事業展開を加速する

業績回復のための施策

成長軌道に乗せる

施策①

がん拠点病院等との
取り組みを水平展開する

施策②

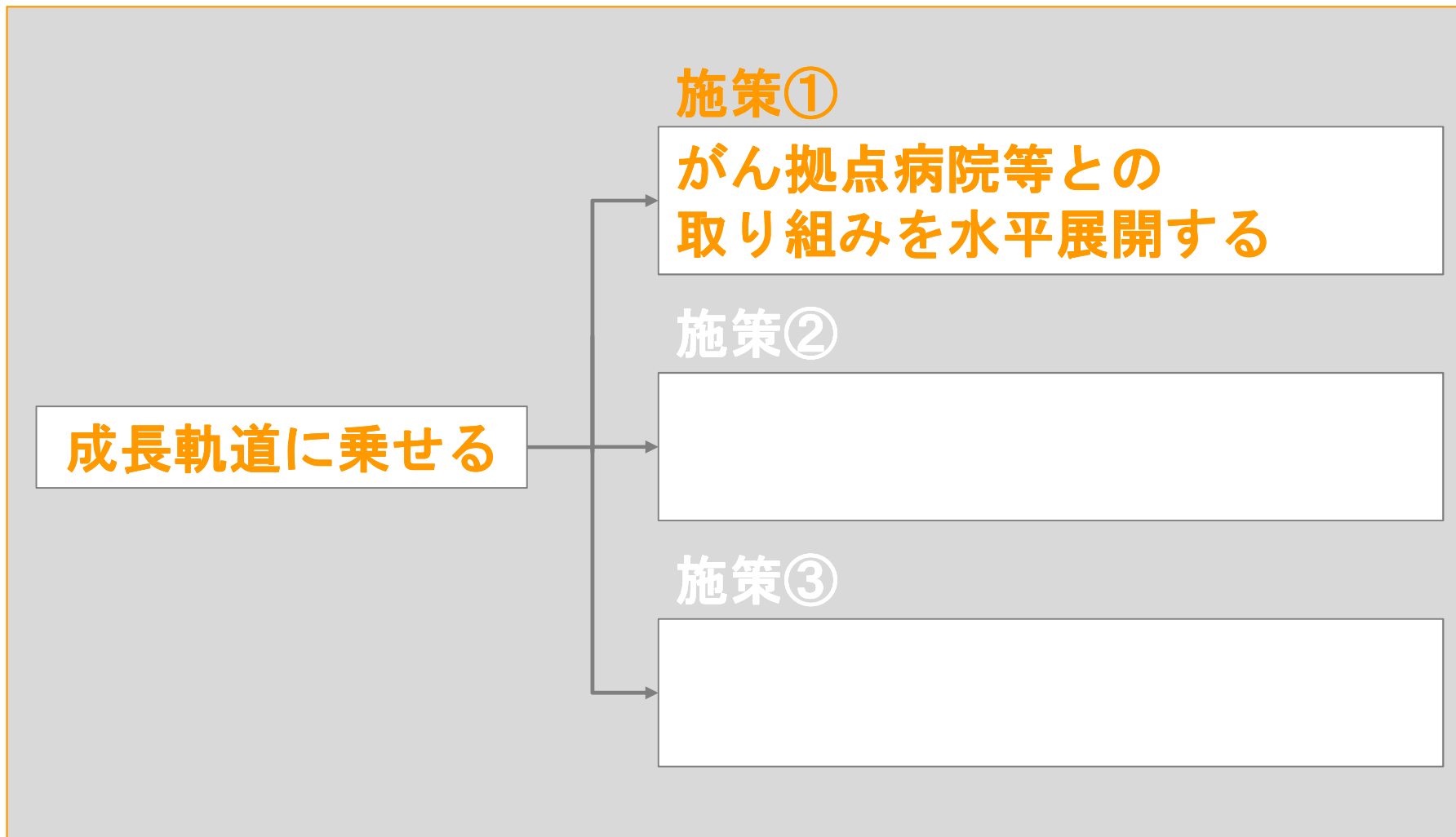
研究開発の成果を
迅速に収益化する

施策③

RA化を踏まえ、
海外事業展開を加速する

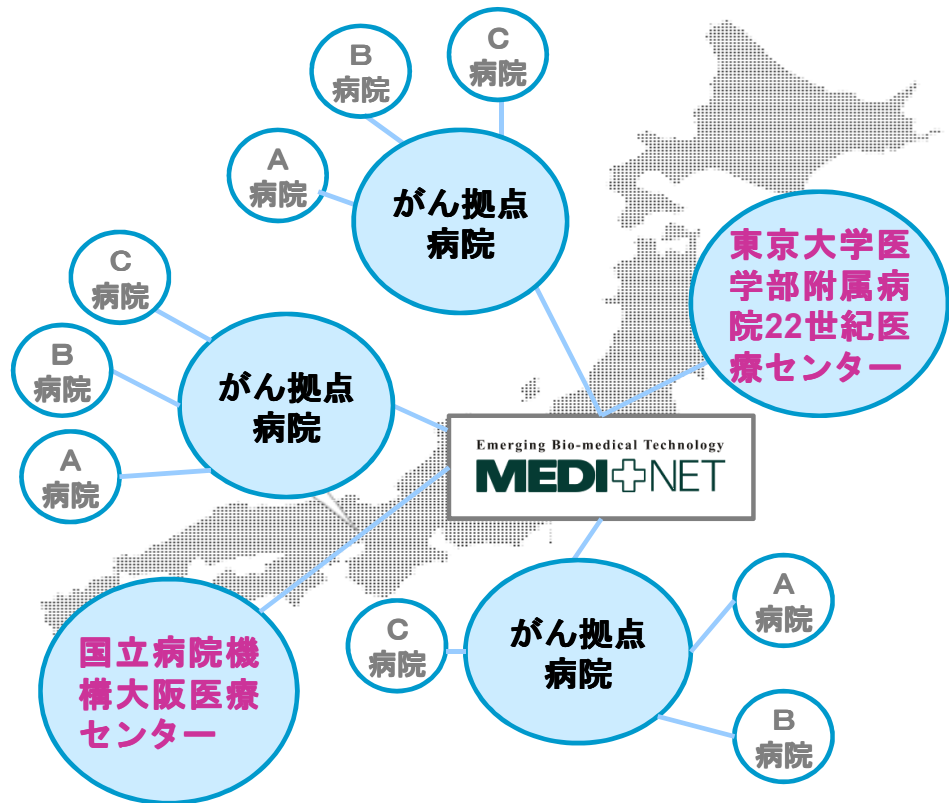
* RA化：規制当局の承認（RA:Regulatory Approval）を得る

業績回復のための施策



* RA化：規制当局の承認（RA:Regulatory Approval）を得る

がん拠点病院等との取り組みを進展させる



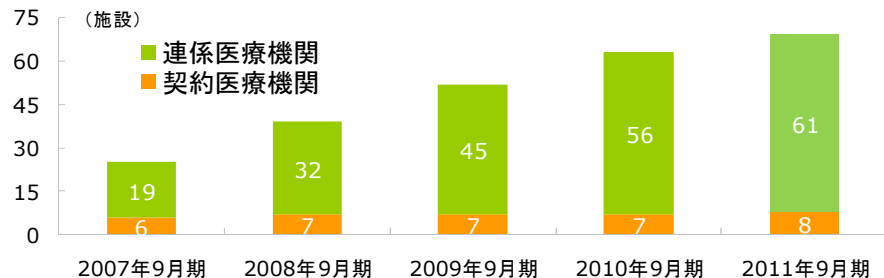
がん拠点病院等に対して、

- ・ 「免疫細胞療法総合支援サービス」の提供
- ・ 細胞加工施設の運営受託などを行なう

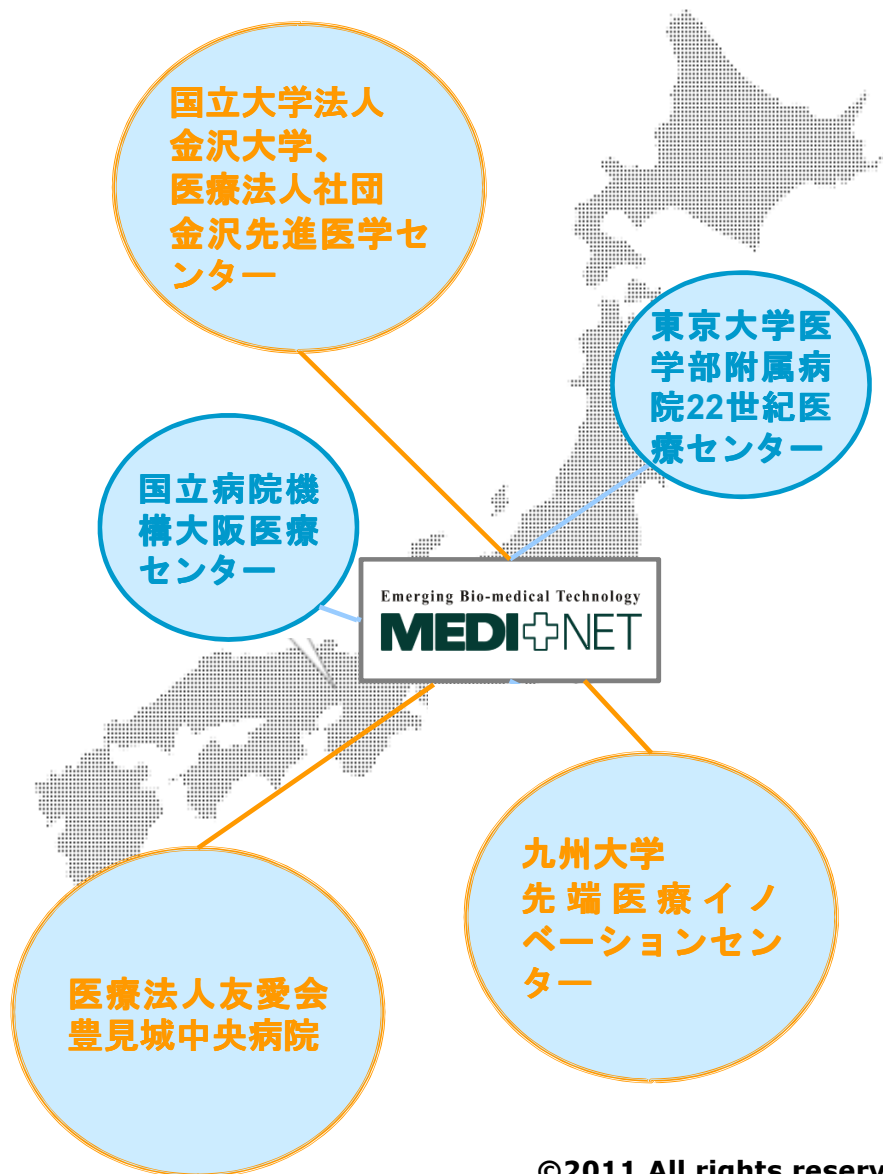
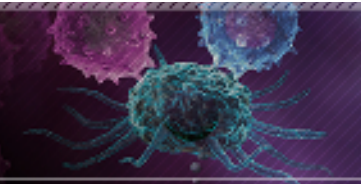
- ・ 医療ネットワーク
- ・ 新規治療開始者数
- ・ 細胞加工件数

を大幅に増加させる

潜在市場を顕在化させる



2011年9月期 がん拠点病院等との新たな取り組みが進展



北陸全体の地域医療を担う中核医療機関

国立大学法人金沢大学、
医療法人社団
金沢先進医学センター
(石川県)

再生・細胞医療産業化のプラットフォーム

医療法人友愛会豊見城中央病院
(沖縄県)

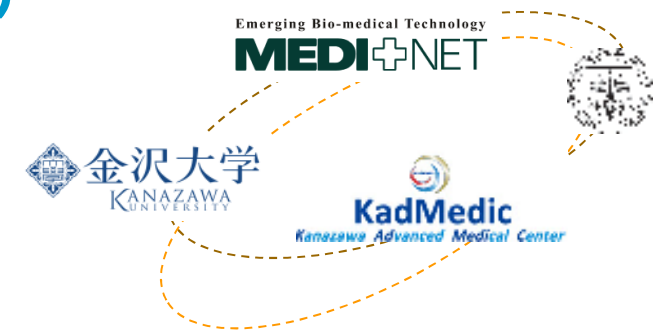
トップレベル研究拠点

九州大学
先端医療イノベーションセンター
(福岡県)

国立大学法人金沢大学、金沢先進医学センター

■ 医療法人社団金沢先進医学センター(KadMedic)

- ・ 北陸エリアの中核先端医療施設
- ・ 当社技術に基づくがん免疫細胞治療を
実地医療として提供
- ・ 症例データを集積し、金沢大学と共に解析研究を推進



■ 国立大学法人金沢大学

- ・ 北陸エリア全体の地域医療を担う中核医療機関
- ・ KadMedicで集積した症例データを解析し、
免疫細胞治療のエビデンスを強化

当社の治療技術を用いた免疫細胞治療が北陸エリアに普及

沖縄県、 医療法人友愛会豊見城中央病院

■ 沖縄県

沖縄県をアジア地域の再生・細胞医療分野の拠点とする構想を推進

■ 先端医療技術産業化研究事業

免疫細胞治療等の先端医療を、

県民や日本・アジア地域の患者に提供できる基盤構築を目指す



豊見城中央病院

Emerging Bio-medical Technology
MEDI+NET



■ 医療法人友愛会豊見城中央病院

- ・ 沖縄エリアの中核先端医療施設
- ・ 附属健康管理センターにおいて免疫細胞治療を実地医療として提供

当社の治療技術、細胞加工施設運営・臨床研究の
ノウハウが、沖縄県の先端医療技術の産業化の基盤構築を担う

九州大学先端医療イノベーションセンター

■ 国立大学法人九州大学

科学技術分野で世界最高水準の研究機関を目指す

「世界トップレベル研究拠点」に厚生労働省が2010年指定

■ 九州大学先端医療イノベーションセンター

・ 当社技術に基づくがん免疫細胞治療が開始

(2011年7月、基本契約締結)

⇒ 「免疫細胞療法総合支援サービス」を本格的に提供

(2011年10月より)

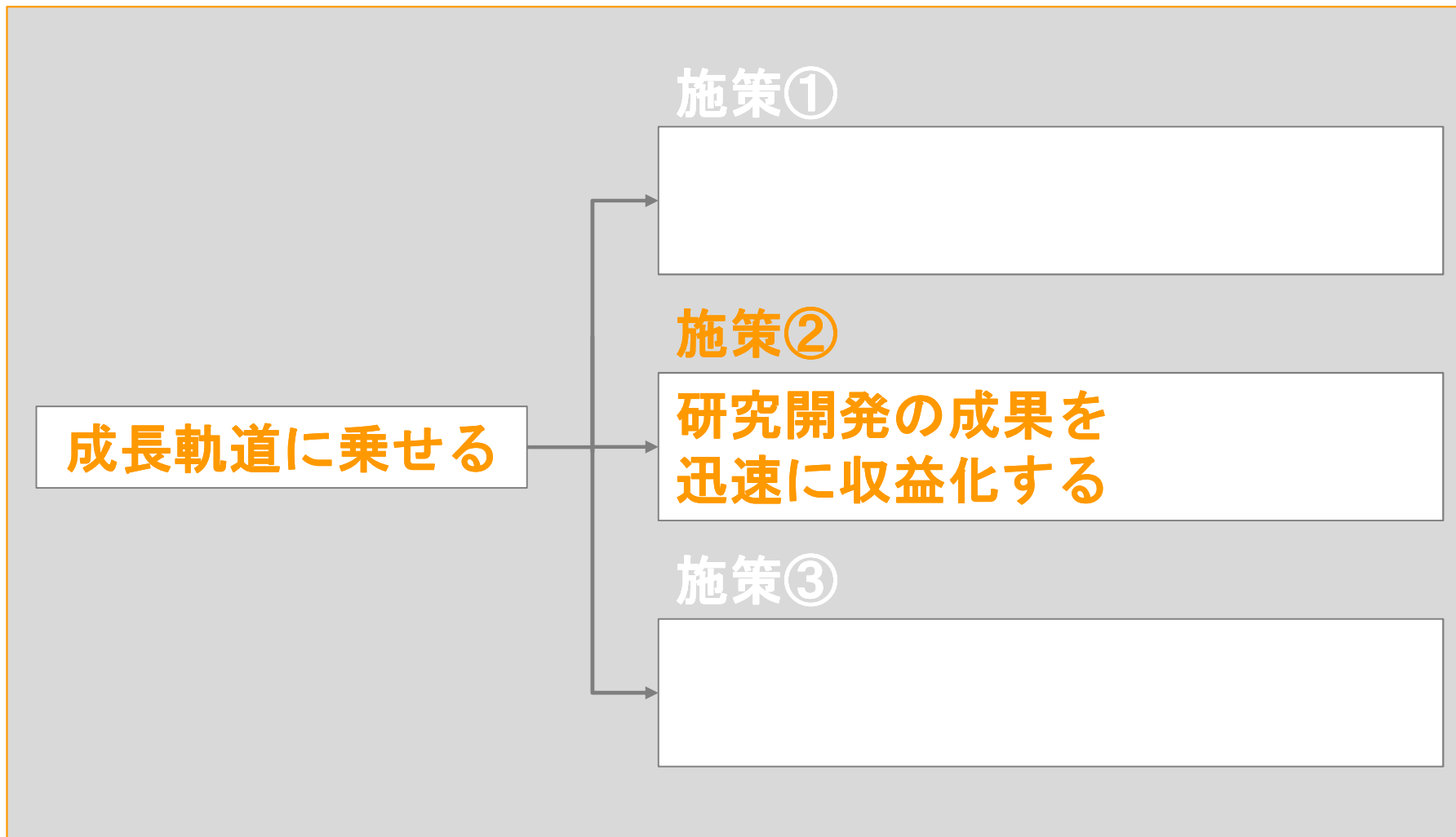
・ 細胞加工施設 (CPC)

⇒ 再生・細胞医療の共同研究で活用されるCPC運営管理を受託



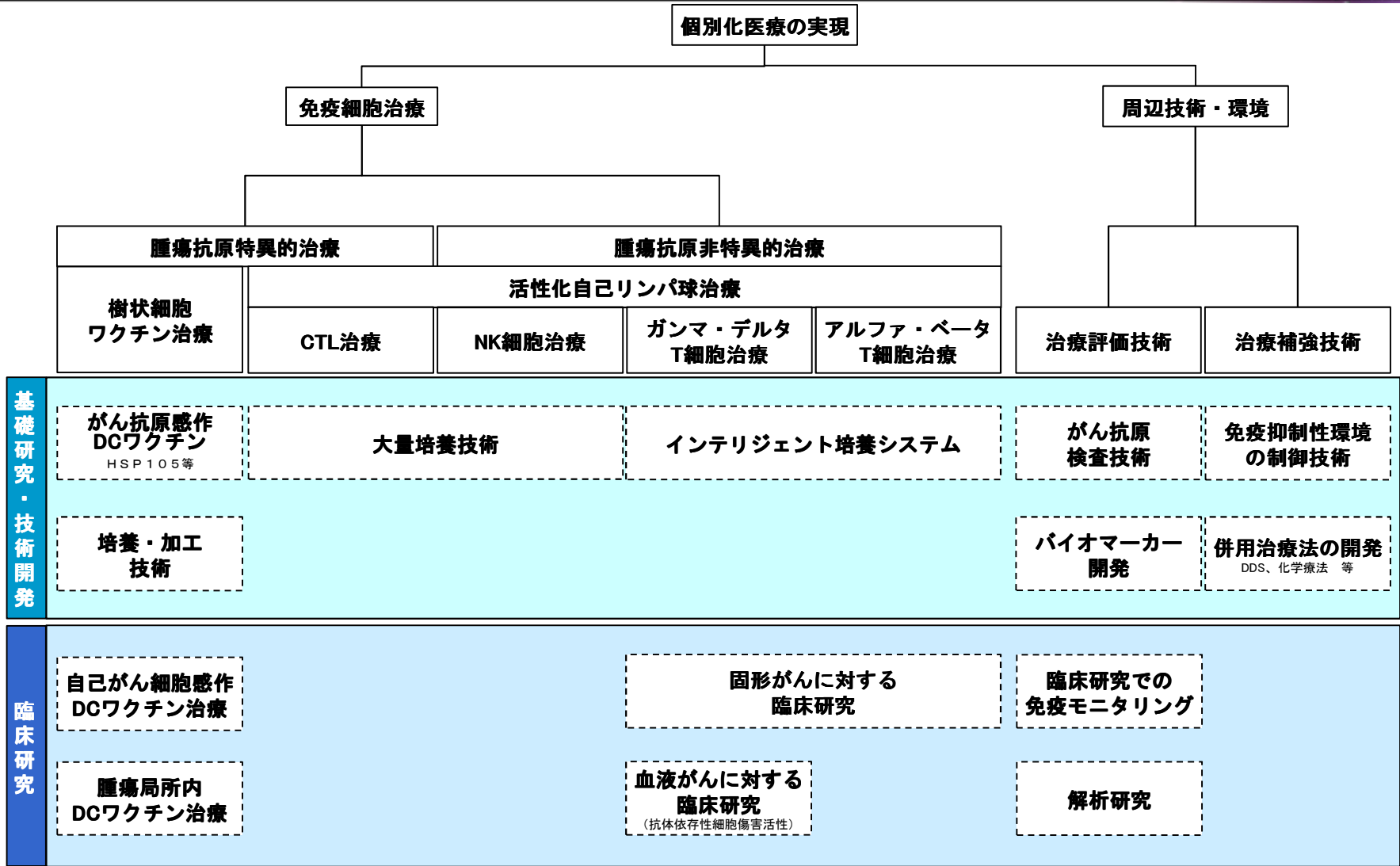
最高水準の治療技術、細胞加工施設運営管理が求められる
先端医療イノベーションの取り組みに、当社が選定された

業績回復のための施策



* RA化：規制当局の承認（RA:Regulatory Approval）を得る

個別化医療をターゲットとした研究開発



基礎研究から出口を見据えた研究開発

2011年9月期 研究開発活動の成果

新たな特許を取得

1. PP-RP由来がん抗原ペプチド特許権を取得（2011年3月）
2. HSP105抗原ペプチドに係る特許が欧州11カ国で成立（2011年8月）

オープンイノベーションの促進

韓国NK BIO社とNK細胞治療技術開発
（2011年6月）

がん抗原に係る特許取得

樹状細胞ワクチン、がんワクチン等への応用や ライセンスを進める

PP-RP由来がん抗原ペプチド

PP-RP(Proliferation Potential-Related Protein)は、食道がんに特異的に高発現しているタンパク質。

【特許情報】

登録番号：特許第4557886号
発明の名称：食道癌の抗原およびその利用
出願人：財団法人くまもとテクノ産業財団

PP-RPに由来するペプチド
5種の権利を取得（2011年3月）

HSP105がん抗原ペプチド

HSP105(Heat Shock Protein 105)は、膵がん、大腸がん、乳がん、食道がん等の多くのがんを高発現するタンパク質。

【特許情報】

登録番号：EP 1536006
権利者：MEDINET Co., Ltd.
指定国：ドイツ、フランス、イギリス、スペイン、
イタリア、スイス、リヒテンシュタイン、
ベルギー、オランダ、スウェーデン、デンマーク

HSP105抗原ペプチド権利取得し、
欧州で特許成立（2011年8月）

進展

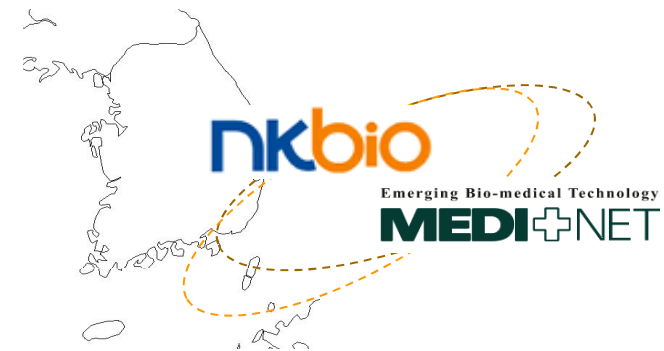
がん免疫細胞治療技術の早期実用化に向けて、
東京大学とHSP105抗原ペプチドを用いたDCワクチン
の臨床試験を開始（2011年11月）

韓国NKBIO社との技術提携

韓国NKBIO社が保有するNK細胞治療技術と 当社独自の細胞技術・ノウハウを融合させる

ナチュラルキラー(NK)細胞

- ・ NK細胞は、がん化した細胞やウィルス感染細胞に細胞死を誘導し排除する、自然免疫細胞の一種。
- ・ 抗体依存性細胞傷害 (ADCC)活性を有している = 高い抗腫瘍効果が期待される

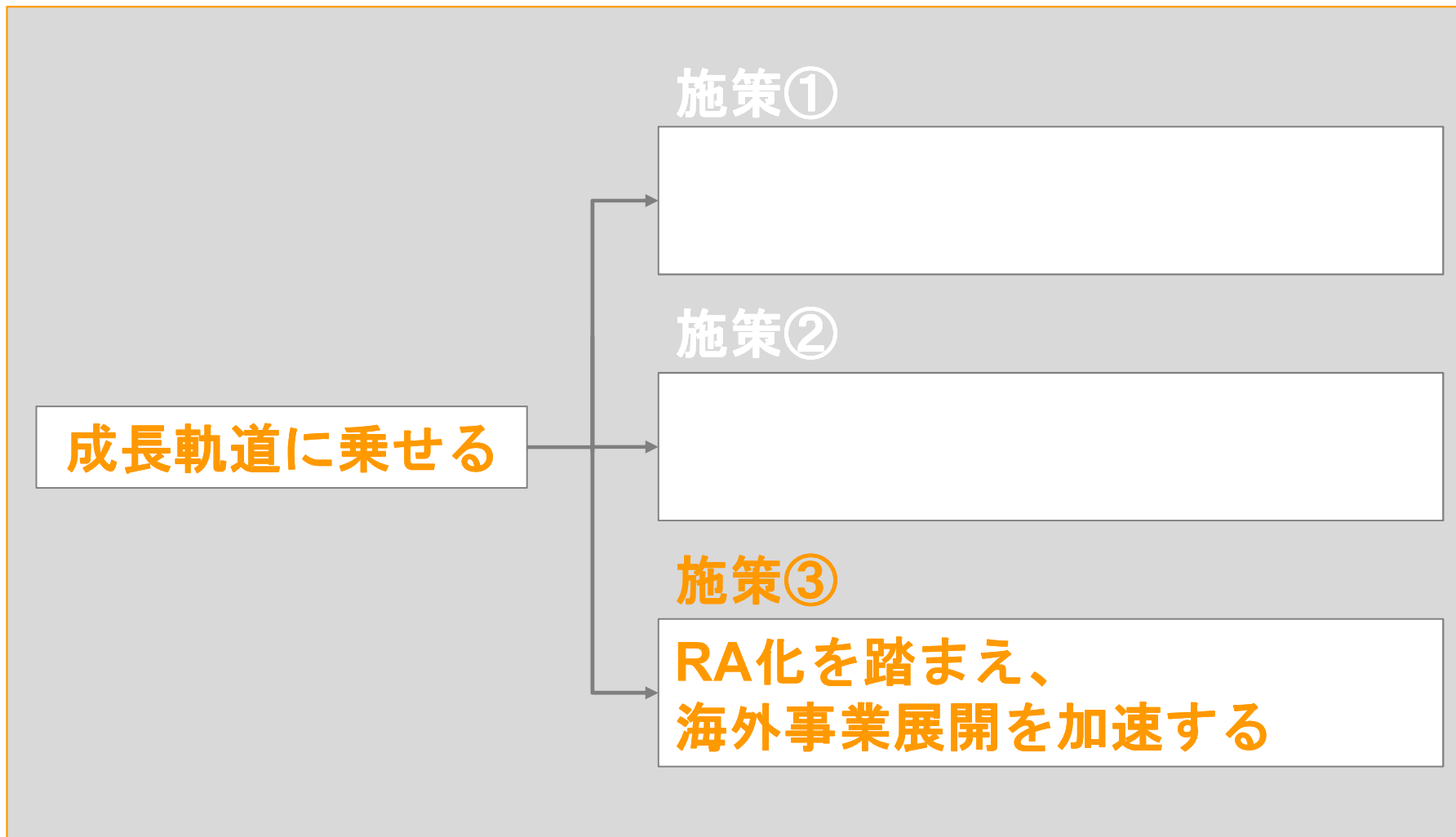


韓国NKBIO社

活性化自己NK細胞を細胞医薬品としてKFDA（韓国食品医薬品安全庁）に薬事承認申請し、条件付きで品目許可を取得し、
現在、臨床第Ⅲ相試験を実施中

オープンイノベーションによる事業化促進

業績回復のための施策

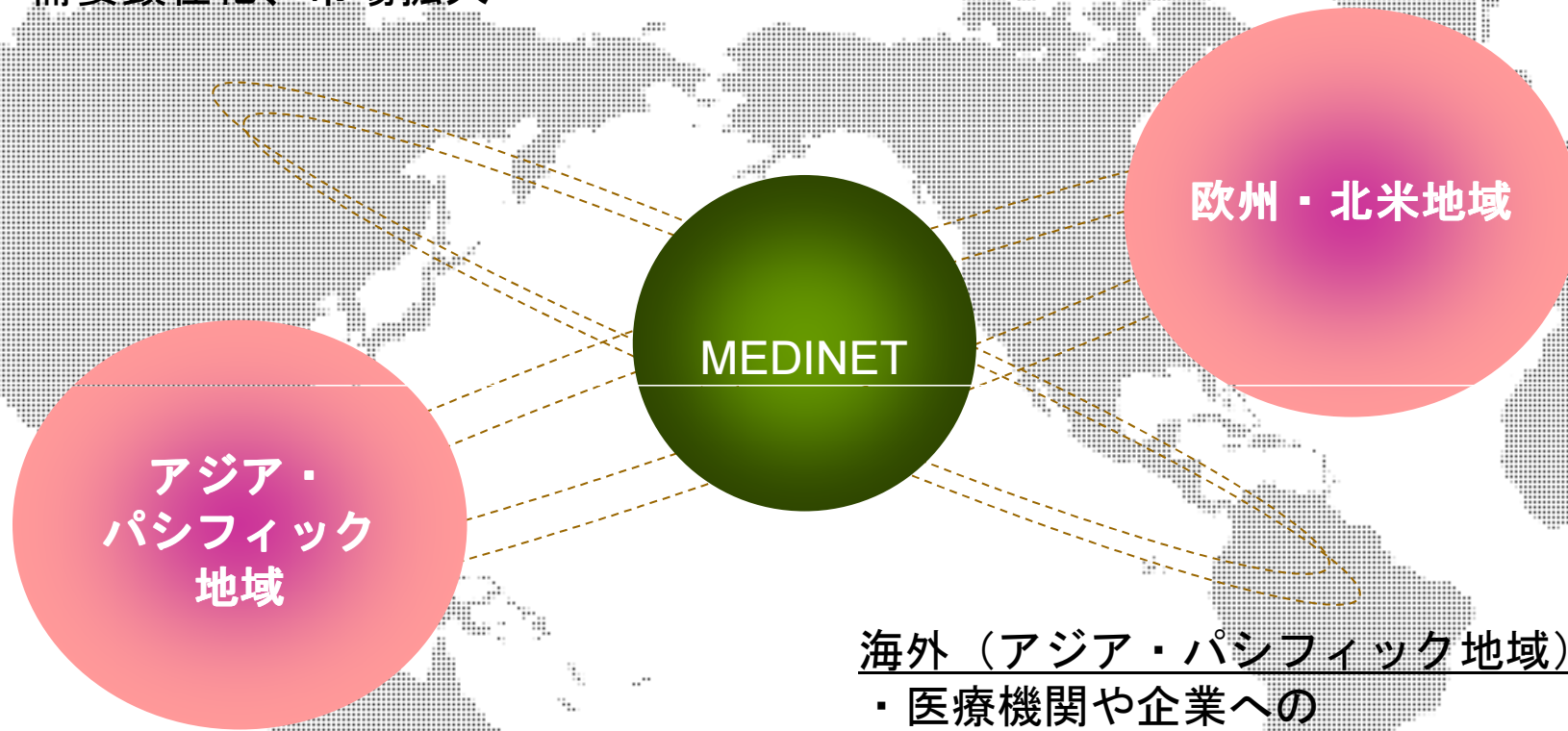


* RA化：規制当局の承認（RA:Regulatory Approval）を得る

日本と海外との両輪で成長性を追求

日本

- ・需要顕在化、市場拡大

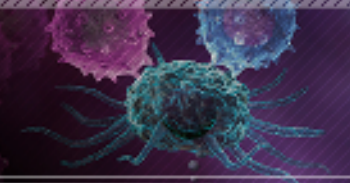


海外（アジア・パシフィック地域）

- ・医療機関や企業への
ライセンス供与等

RA化（規制当局の承認：Regulatory Approval）を
踏まえながら、海外事業を展開

アジア・パシフィック地域を中心とした 海外事業展開を加速



RA化を踏まえた、 「前臨床試験」データパッケージの取得を目指す (2011年10月)

■米国デューク大学 H. Kim Lyerly教授らのチーム

- ・ これまでDCワクチンに係る臨床試験を数多く実施。
- ・ アメリカ食品医薬品局（FDA）の承認取得に係る経験豊富。

■当社独自のDCワクチン技術

ゾレドロン酸による感作と、

米国MaxCyte社のエレクトロポレーション技術を組み合わせた独自技術

**デューク大学が、当社独自のDCワクチン治療技術に注目。
グローバルR&Dを推進**



1. 2011年9月期 事業活動報告

■2012年9月期に向けて

国内深耕、海外進取

国内

- ・ **2011年6月**
再生医療の産業化の道筋を示すことなどを目的に、一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム」(FIRM)が設立
- ・ **2011年7月**
革新的医薬品・医療機器の実用化に向け、医薬品医療機器総合機構に「薬事戦略相談室」が設置

海外

- ・ **2010年4月**
米国食品医薬品局 (FDA) が、米国デンドレオン社が開発した「PROVENGE®」を承認
- ・ **2011年10月**
ブルース・ボイトラー米スクリプス研究所教授、ジュール・ホフマン・フランス分子細胞生物学研究所前所長、ラルフ・スタインマン米ロックフェラー大学教授が、ノーベル生物学・医学賞を受賞

先天性(自然)免疫機構に関わる発見、後天性(適応)免疫における樹状細胞とその役割を解明した業績が評価

細胞医療のリーディングカンパニーとして
グローバル展開を促進

©2011 All rights reserved for MEDINET Co., Ltd.



Emerging Bio-medical Technology
MEDI+NET

2011年9月期 業績報告

取締役 管理本部長
原 大輔



2. 2011年9月期 業績報告

■ 2011年9月期 業績報告

2011年9月期 決算ハイライト

(単位：百万円)	2010年9月期	2011年9月期	対前年同期比		対当初業績予想 (2010年11月5日公表) ※3	
	前年同期 実績	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	3,202	2,674	(528)	-16.5%	(848)	—
営業利益	334	(303)	(637)	—	(653)	—
経常利益	366	(353)	(719)	—	(703)	—
為替差益(差損)	31	(16)	-	-	-	-
当期純利益	438	(542)	(980)	—	(882)	—
法人税等調整額	(140)	153	-	-	-	-
設備投資	※1 131	※2 321	—	—	—	—
減価償却費	129	154	—	—	—	—

・設備投資は、有形固定資産のほか、無形固定資産のうちソフトウェアを含めています。

設備投資＝有形固定資産＋ソフトウェア

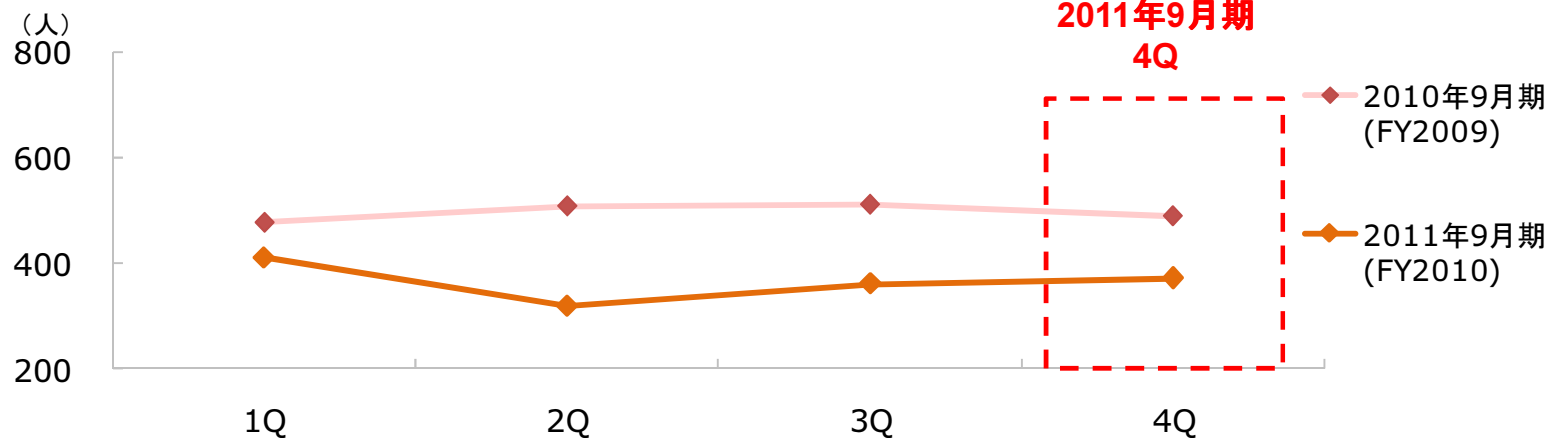
※1 2010年9月期の設備投資には、リース資産21百万円が含まれています。

※2 2011年9月期の設備投資には、リース資産47百万円が含まれています。

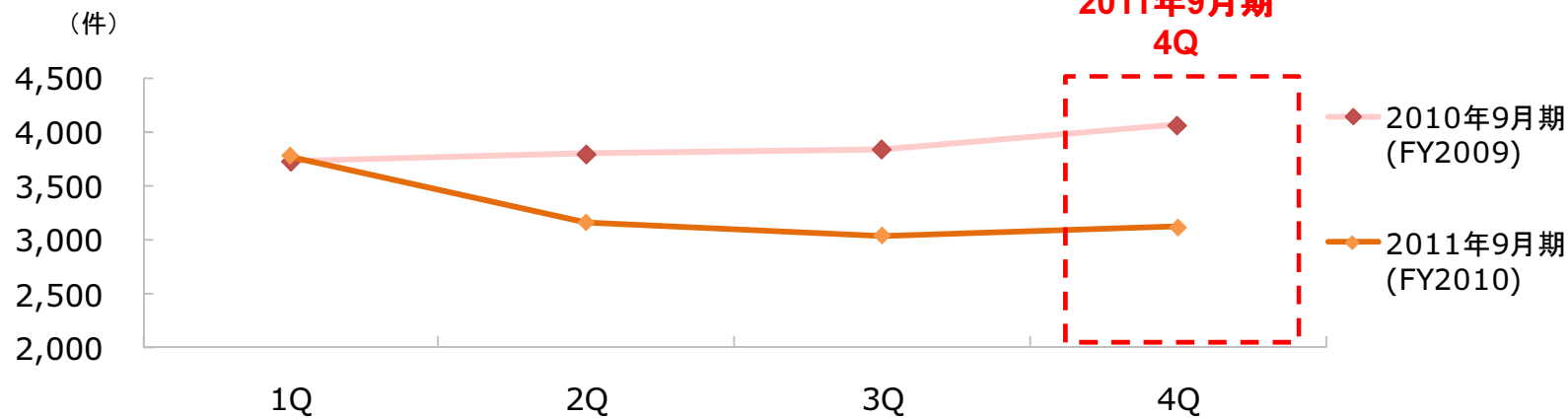
※3 2011年9月期の業績予想につきましては、2010年11月5日に公表した業績予想を2011年4月28日および2011年10月28日に修正しております。

患者数および細胞加工件数

患者数

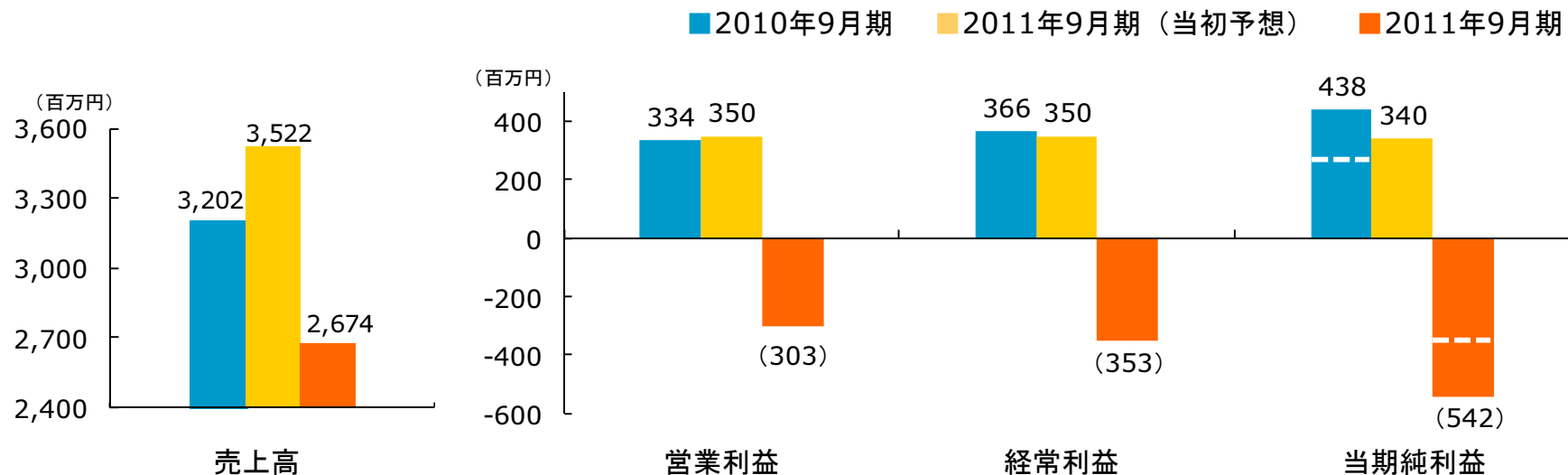


細胞加工件数



2011年9月30日現在

売上高・利益（前年同期比、当初予想比）



売上高

未曾有の大震災の影響が予想以上に大きく、免疫細胞療法総合支援サービス売上が当初計画を下回り、前年同期比16.5%（528百万円）減。

営業利益

（前年同期比）
 ・売上総利益 -493百万円
 ・販売費及び一般管理費増 -144百万円

 営業利益 -637百万円

経常利益

（前年同期比）
 ・営業利益 -637百万円
 ・為替差損益 -48百万円
 ・株式交付費 -18百万円
 ・その他 -16百万円

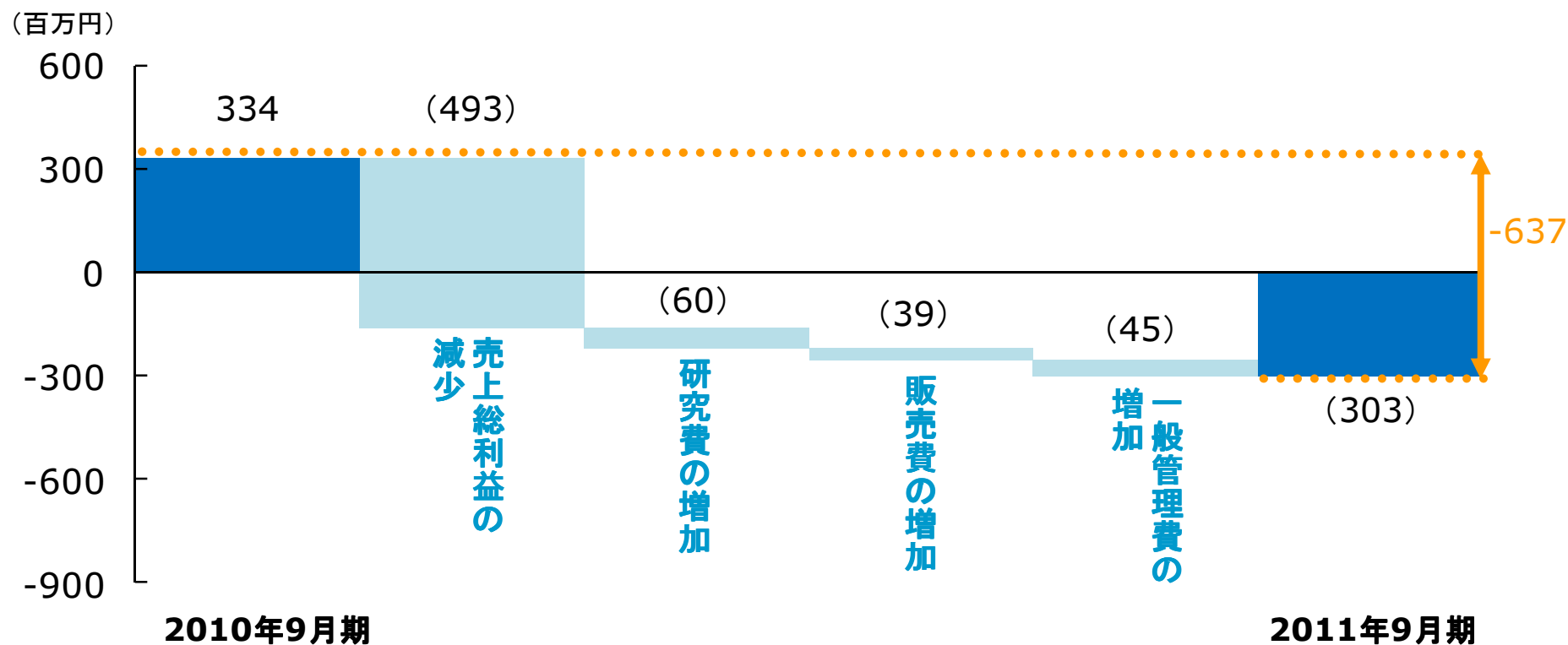
 経常利益 -719百万円

当期純利益

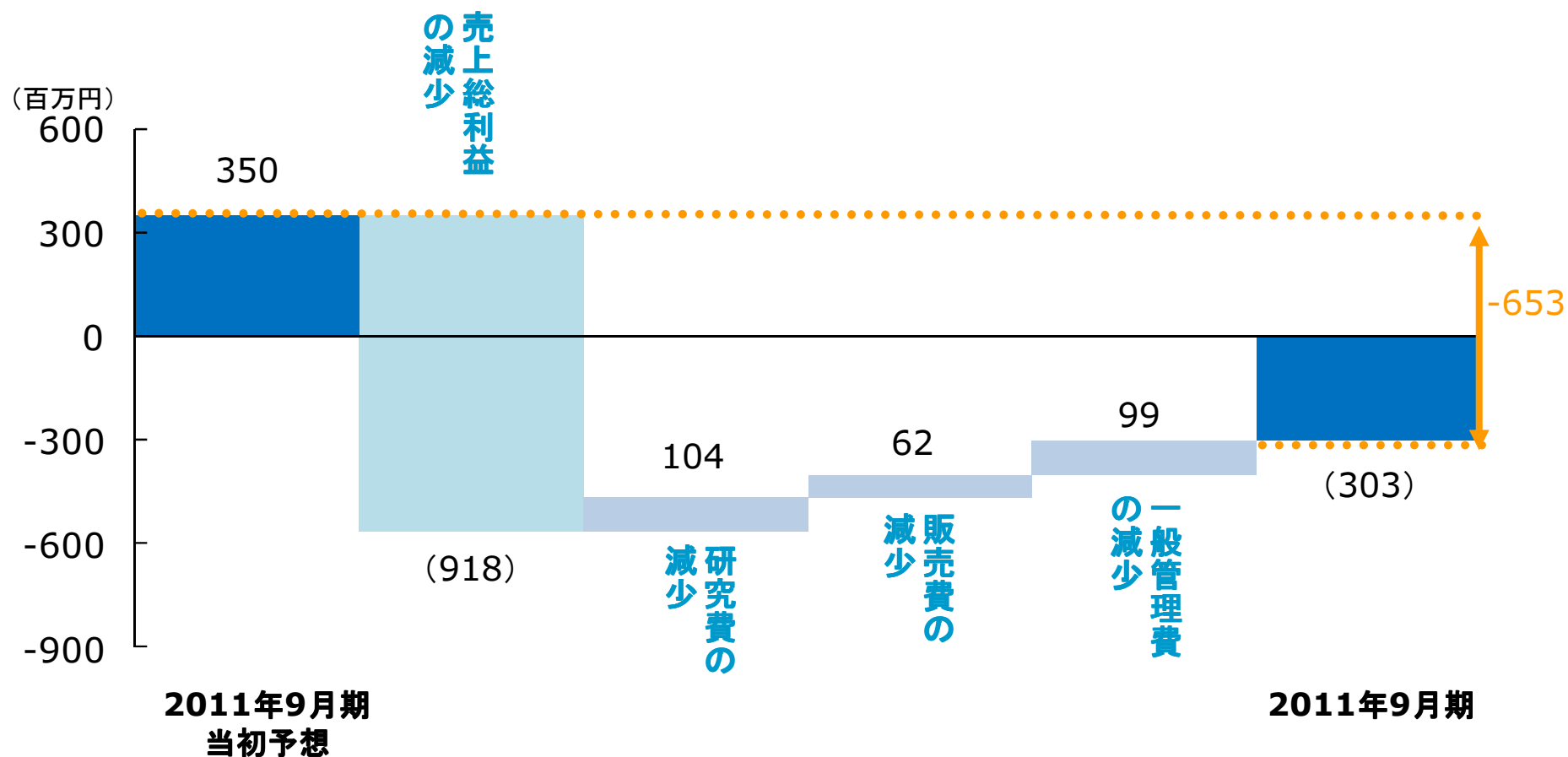
（前年同期比）
 ・経常利益 -719百万円
 ・資産除去債務会計基準の適用の伴う影響額 -20百万円
 ・投資有価証券評価損減少 +59百万円
 ・法人税等調整額 -294百万円
 ・その他 -7百万円

 当期純利益 -981百万円

営業利益増減の内訳（前年同期比）



営業利益増減の内訳（当初予想との比較）



連結損益計算書および連結包括利益計算書 2010年10月1日～2011年9月30日

連結損益計算書

(金額：百万円未満切捨)

区 分	金 額	構成比
売上高	2,674	100.0
売上原価	993	37.1
売上総利益	1,680	62.8
販売費及び一般管理費	1,983	74.2
（研究開発費）	468	
（販売費）	629	
（一般管理費）	885	
営業利益	(303)	-11.4
営業外収益	12	0.4
営業外費用	62	2.3
経常損失	(353)	-13.2
特別利益	0	0.0
特別損失	25	0.9
税金等調整前当期純損失	(378)	-14.1
法人税、住民税及び事業税	10	0.4
法人税等調整額	153	5.7
少数株主損益調整前当期純損失	(524)	
当期純損失	(542)	-20.3

連結包括利益計算書

(金額：百万円未満切捨)

区 分	金 額
少数株主損益調整前当期純損失	(542)
その他有価証券評価差額金	75
その他の包括利益合計	75
包括利益	(467)
（内訳）	
親会社株主に係る包括利益	(467)
少数株主に係る包括利益	—

連結貸借対照表 2011年9月30日

(金額：百万円未満切捨)

区 分	金 額	構成比	区 分	金 額	構成比
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	5,743	71.6	流動負債	1,356	16.9
現金及び預金	1,858		買掛金	137	
売掛金	551		短期借入金	800	
有価証券	2,999		リース債務	14	
原材料及び貯蔵品	132		未払金	307	
その他	201		未払法人税等	20	
			賞与引当金	52	
			資産除去債務	2	
			その他	21	
			固定負債	1,182	14.7
			新株予約権付社債	1,000	
			リース債務	50	
			繰延税金負債	50	
			資産除去債務	76	
			その他	4	
			負債合計	2,538	31.6
固定資産	2,280	28.4	(純資産の部)		
有形固定資産	629		資本金	3,631	45.3
無形固定資産	209		資本剰余金	5,043	
投資その他の資産	1,442		利益剰余金	(3,244)	
			その他有価証券評価差額金	56	
			純資産合計	5,486	68.4
資産合計	8,024	100.0	負債純資産合計	8,024	100.0



2. 2011年9月期 業績報告

■ 2012年9月期 通期業績予想

2012年9月期 通期業績予想

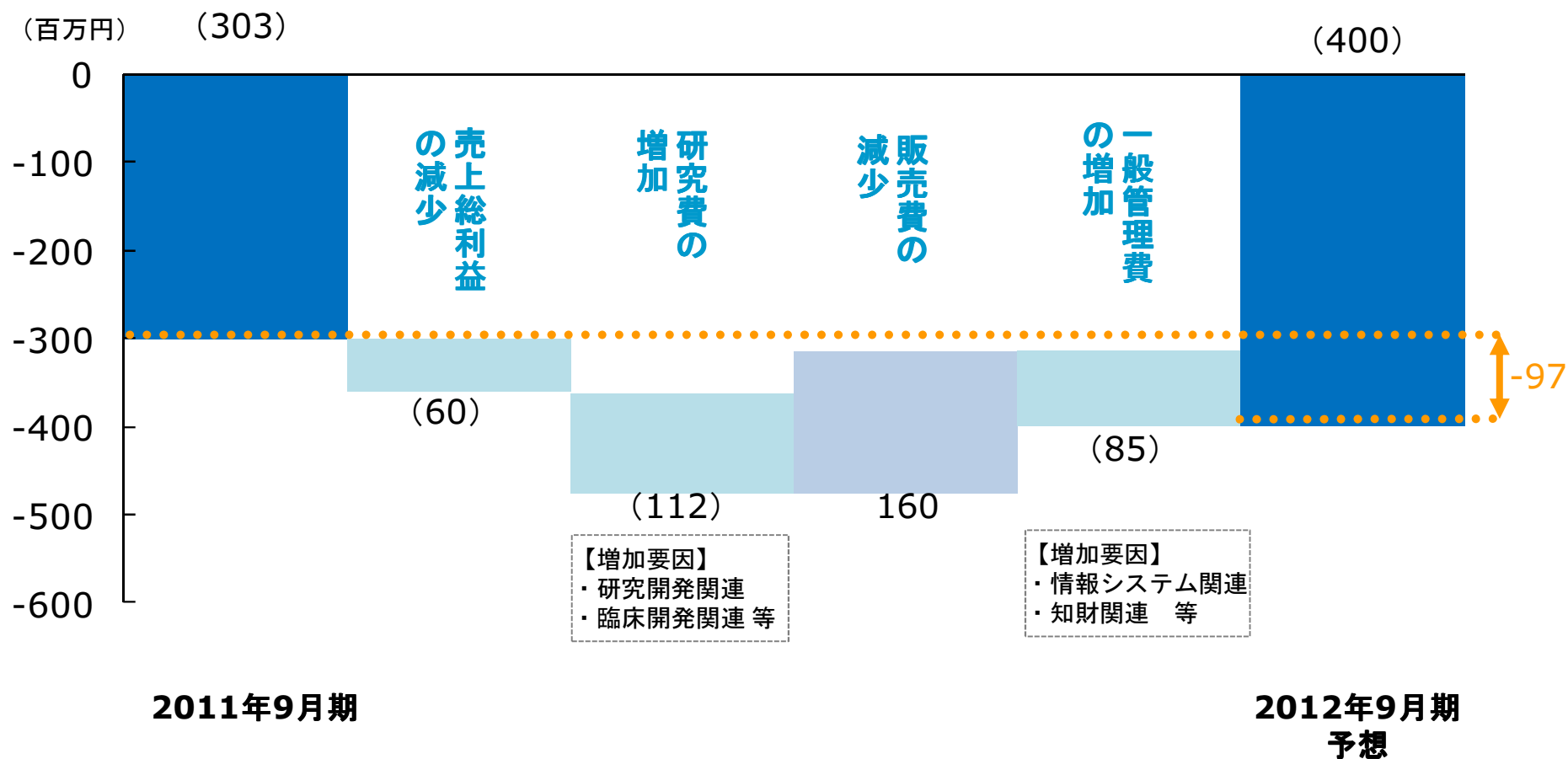
(単位：百万円)	2011年9月期	2012年9月期	対前年同期比	
	実績	予想	増減額	増減率
売上高	2,674	2,650	(24)	-0.9%
営業利益	(303)	(400)	(97)	—
経常利益	(353)	(400)	(47)	—
為替差損	(16)	-	-	-
当期純利益	(542)	(410)	132	—
法人税等調整額	153	-	-	-
設備投資	※ ¹ 321	—	—	—
減価償却費	154	—	—	—

・設備投資は、有形固定資産のほか、無形固定資産のうちソフトウェアを含めています。

設備投資＝有形固定資産＋ソフトウェア

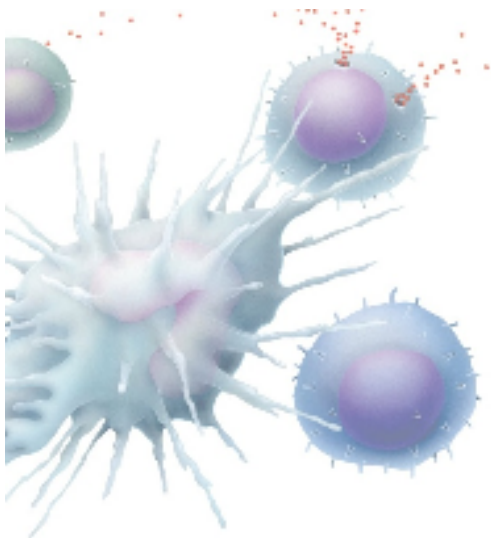
※1 2011年9月期の設備投資には、リース資産47百万円が含まれています。

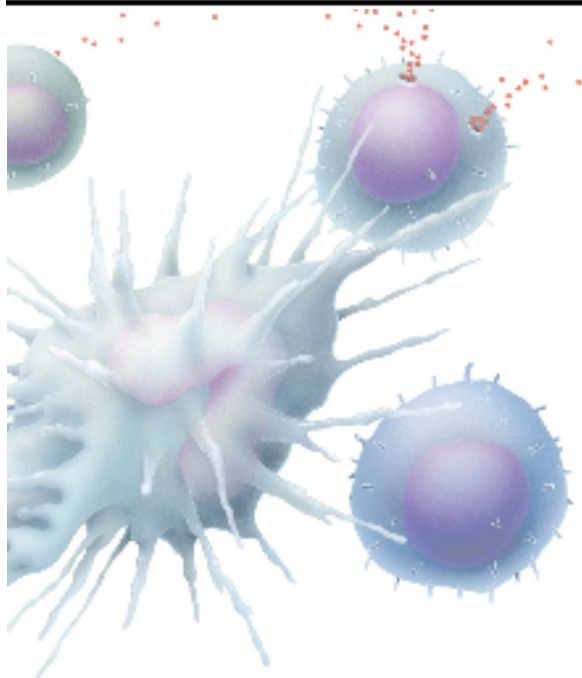
営業利益増減の内訳（前年同期比）



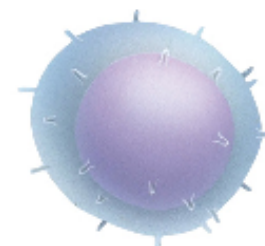


ご清聴ありがとうございました。





Emerging Bio-medical Technology
MEDI+NET



この資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち歴史的
事実でないものは、将来の事業に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な
情報から得られた当社の経営陣の現時点における判断に基づいており、顕在化・潜
在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、これらの見通しに全面
的に依拠することは控えるようお願い致します。